全国中学スケート大会出場の古川幸希さんが優勝報告、バンディ日本代表の大谷賢司さんが世界選手権の結果を報告　ほか

5百メートルは予選から1位で完全優勝！

全国中学スケート大会出場の古川幸希さんが優勝報告

第37回全国中学校スケート大会に出場し、5百メートルで優勝を果たした古川幸希さんが、町長室を訪れ、浜田正利町長と武田芳秋教育長に成績を報告しました。

5百メートルは予選を1位で突破し、決勝で走った2本でも1位を譲らず、完全優勝。千メートルは、予選は18位でしたが、そこから順位を大きく上げ、3位入賞。予選通過や決勝の順位にポイントが与えられ、総合ポイントで競う学校対抗でも1人の参加ながら3位に入りました。

「皆さんの支えと応援があったからこその今回の結果。来年も頑張ります」と古川さんは話し、「普段の努力があったからこその結果、おめでとう」と浜田町長が祝福し、花束が贈呈されました。

優勝を報告した古川さん（左）と浜田町長

接戦での敗戦でメダル獲得に自信

バンディ日本代表の大谷賢司さんが世界選手権の結果を報告

1月23日～28日にスウェーデンで行われたバンディ世界選手権に日本代表として出場したJA新得町の大谷賢司さんが、太田眞弘組合長とともに町長室を訪れ、浜田正利町長に結果を報告しました。

バンディは、サッカーコートほどのリンクで11人で行われ、プラスチック製のボールをスティックで相手ゴールに入れて点数を競います。

世界選手権は、日本は2部リーグに所属。準決勝でハンガリーに3対4の接戦で、3位決定戦ではモンゴルに敗れ、4位という結果でした。

「接戦での敗戦だったため、来年のメダル獲得に自信がついた」と大谷さんは話していました。

左から浜田町長、大谷さん、太田組合長

綺麗なシュプールを描き滑降

第28回町民スキー大会

第28回町民スキー大会が2月26日、晴天の下、新得山スキー場で開催され98人が参加しました。

結果は次のとおり。（競技区分別1位のみ掲載）

〔男子スキー〕◇幼児＝根本健海◇小学1・2年＝谷口淳基◇小学3・4年＝加藤啓太◇小学5・6年＝谷口雄基◇中学・高校＝渡辺海翔◇一般D＝松坂富夫◇一般C＝渡辺智浩◇一般B＝平井祐司◇一般A＝金子大

〔女子スキー〕◇幼児＝永松伊吹◇小学1・2年＝根本ほなみ◇小学3・4年＝金子結紀◇小学5・6年＝長谷川生◇一般＝出口律子

〔スノーボード〕◇小学4年以下＝根本ひより◇小学5・6年生＝三坂海翔◇中学以上＝本庄凌空

冬の健康づくりに心地よい汗

第37回町民歩くスキーの集い

第37回町民歩くスキーの集い（町歩くスキーの会主催）が2月26日、サホロリバーサイド運動広場・歩くスキーコースで行われ、28人が参加しました。

この集いは、過去には狩勝高原サホロ歩くスキーフェスティバルと兼ねて開催され、最大で777人の参加者がいました。最近は、30人前後の参加者となっていますが、雪と親しみ楽しみながら、町民同士の交流を深めることを目的として行われており、参加者らは楽しそうに笑顔でスタートしていきました。時折、冷たい風が吹きましたが、晴天の下、小学1年生から最高齢92歳までの参加者らは、2・2キロを心地よい汗をかきながら歩いていました。

柴田則雄さんに「緑十字銀章」を伝達　ほか

永年の無事故・無違反に交通栄誉賞

柴田則雄さんに「緑十字銀章」を伝達

多年にわたり、自動車の運転を通じ、交通事故の防止と交通秩序の確立に顕著な功績があった人に贈られる「緑十字銀章」が柴田則雄さんに、感謝状が配偶者の柴田洋子さんに2月7日、新得警察署で伝達されました。

柴田さんは、昭和37年に免許を取得して以来、54年と6月の間、無事故・無違反を継続しています。また、自身や家族などの交通安全はもちろん、大型免許を所有していることから、積雪により身動きが取れなくなった車などを積極的に救援するなど、交通安全に多大に貢献しています。

受章を受け、「受章できてうれしい限り。今後も安全運転に努めていきたい」と柴田さんは決意を新たにしていました。

受章した柴田さん

活動を続けて50年

新得短歌会が創立50周年記念、第600回例会を開催

新得短歌会（小野洋子会長）の創立50周年記念、第600回例会が2月17日、町公民館図書室で行われました。

同短歌会は、昭和42年2月に当時新得高校校長の越田千太郎さんらによって創立され、以来、短歌を持ち寄り、批評し合う月1回の例会を欠かさず開いてきました。昭和48年から5期20年間、町長を務めた佐々木忠利さんも入会していた時期があり、50年で約200人が活動を行ってきています。

600回の節目を迎え、小野会長は「短歌の魅力は、詠んだ人の気持ちや人柄が垣間見れること、700回に向けて若い人に短歌の楽しさを伝えるなど、普及にも力を入れたい」と話していました。

小野会長（前列左から2番目）と会員ら

「取った」、「やられた」一喜一憂の第1回大会

しんとくふるさと歌留多大会が初開催

第1回しんとくふるさと歌留多大会（町文化連盟主催）が2月25日、町武道館で行われ、12チーム36人が参加しました。札を取ったり、取られたりとかるたを楽しんだようで、「取った」、「やられた」など一喜一憂の様々な声が聞こえました。

白熱した勝負が続き、接戦を勝ち上がって決勝に駒を進めたのは「植村土建Y・N・I」と「稲村さんと愉快な仲間達」。決勝も接戦でしたが、「植村土建Y・N・I」が勝利し、初優勝チームとして名を残しました。

「練習の成果が出た。会社が創立70周年を迎えるので、優勝チームとして名を残せて良かった」と植村土建チームは今回の大会を振り返っていました。

第1回優勝の「植村土建Y・N・I」

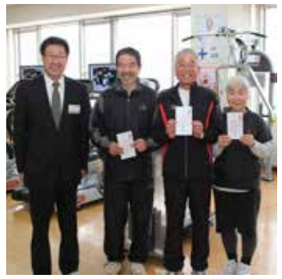
リフレッシュルーム利用者10万人達成

平成11年にオープンし18年目で達成

町保健福祉センターなごみリフレッシュルームの利用者が2月17日、延べ10万人に達したのを記念して、10万人目とその前後の利用者を含む3人に、浜田正利町長から記念品として町の特産品セットの目録が贈られました。

記念すべき10万人目の利用者は、町内の富田秋彦さんで、9万9999人目が新沼宗子さん、10万1人目が小塚文夫さんでした。

富田さんは「いつもは外をウォーキングなどをしているが、天気が悪かったので2年ぶりに来た。そうしたらこんなことに」と驚いた様子でした。浜田町長は「自主的に健康管理に努力され、効果を感じていると思うので、お手本としてもっと皆さんにPRしてほしい」と話していました。


目録を手にする新沼さん、富田さん、小塚さん（写真右から）